

平成28年度富山県文化審議会

日 時：平成28年11月10日（木）午後3時30分～

場 所：富山県民会館304会議室

議 事

(1) 文化に関するアンケート調査結果について

(2) 「新世紀とやま文化振興計画（改定版）」の改定（骨子たたき台）について

【会長】

前回に引き続きまして、「新世紀とやま文化振興計画（改定版）」の改定についてご審議をいただきたいというふうに思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

初めに、事務局から、先般実施された「文化に関するアンケート調査の結果」そして「富山県経済・文化長期ビジョン」、さらには「新世紀とやま文化振興計画（改定版）」の改定（骨子たたき台）について説明をいただき、その後、委員の皆様には、計画の改定（骨子たたき台）に関するご意見やご提言、さらには改定計画に盛り込んだらよいと思われる具体的な取り組みや事業のご提案などについて、追加も含めてご発言いただければというふうに思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

< 事務局説明 >

【会長】 ただいま、「新世紀とやま文化振興計画（改定版）」の改定（骨子たたき台）などについて事務局から説明がありましたけれども、今ほどの事務局の説明も踏まえ、委員の皆さんから、まず1番目に、計画の改定に関する骨子たたき台に関するご意見、ご提言、2番目として、改定計画に盛り込んだらよいと思われる具体的な取り組みや事業のご提案などについてご意見を伺いたいと思います。

【〇〇委員】

今、利賀のことで言いますと、世界の演劇大学から利賀に長期的に学生を送り込んで演劇のことを学ばせたいという申し出が非常に多くなっている。非常に重要なことだと思います。

ますので、ぜひ積極的にやっていきたいと思っております。

施設については、非常に快適な宿舎を整備して施設的には充実してきて受け入れ体制が整っているんですが、やはり利賀で食事をつくる方がなかなかいない。どこかでお料理をつくってもらって運んでもらってというのが利賀だと難しいものです。そういった体制が利賀で可能になれば、またそこで職業も生まれて、職も生まれて、利賀で暮らす人というのもできてくると思っていますので、何かそういうよい仕組みができればいいなというふうに思っております。

長期的にいろんな方が滞在していきますと、演劇だけではなくて、ほかにやっぱり今の世界ですので、経済とか社会とか文化とか、そういった幅広いことも教えていきたいので、そういった講師の方もお願いすることになります。演劇を学ぶ人たちだけではなくて市民講座のようなものを開いて、いろんな県民の方にもそういったものをオープンにさせていただくことができれば、利賀の施設も生かれますし、そこで演劇も見ていただいて、社会経済に興味ある方がまた文化に興味を持っていただくというきっかけにもなると思っています。単にその文化が好きな方だけではなくて、いろんなことに興味がある方に来ていただくきっかけというふうなのが総合的につくればいいと思っております。

あと、子どもたちのことと言いますと、なかなか外国人と接する機会というのは子どものころは少ないので、そういった機会もつくりたいというふうに思っております。政治的、経済的なことが世界的に摩擦であっても、やはり文化は常に世界に開く窓でありたいと思っておりますので、そういったことができるような計画であればいいと思っております。

【〇〇委員】

子どもころから日常的に伝統文化の継承にかかわることが大切だと思っております。

それには、まず学校教育での関与と学校の理解が大切じゃないかと思えます。学校の理解あるいは協力体制があれば、子どもたちにより伝統文化に関する興味を持ってもらえるのではないかと思います。

例えば、生け花は自然の素材を相手にして空間の構成や色彩感覚と素材の持っている特色の生かし方などが、大きく言えば、美術とか他の分野にもかかわっていただけるのではないかと思います。

学校教育で大いにこの生け花を取り入れていただきたいと思っております。

【〇〇委員】

文化観光という視点からとりあげますと、今度、ユネスコの文化遺産として曳山、そして高岡の御車山など、山・鉦・屋台行事が登録になりますけども、せっかくお祭りに来ても、いわゆるハレの日で神との食なんていうこともありますけども、食べるところがなかなかないので、お祭りに参加するあるいは見るだけじゃなくて、食というところにつながっていくと、そこに一つ意義があります。せっかく富山県は獅子舞から始まって、祭りが年間通してあるわけですから、文化的なところでも大事な点だと思いますが、お祭りのときは運営する場合はどうしても人手が足りないとかで食までは、と言われる。

それに対する方法として、地域おこし協力隊など若い人を入れてくれる方でも、そういう食のイベントなんかも具体的にできると思うので、若い人とのネットワークをどう活かすか、それで解決できるところもあるんじゃないかなと思います。

【〇〇委員】

自分、大人よりも子どもに体験させたい、子どもによりよい環境を与えたいというような意見が多いということは先を見据えたこれからの計画に本当に必要なことだと思っております。

大人は自分の意思でいろんなものを選択できますけれども、子どもは大人の援助が必要です。体験をできるチャンスをつくることは大人の責任であると思います。

どんなにすばらしい状況ができて、そこへ誰が、いつ、どうやって子どもたちを連れてくるのか、専門的な見地、ある程度子どもというものを知っていて、子どもにいつ、どんなときに、どんなことと出わせてあげればいいのかということを計画する、実施するための方法論を考える人が必要ですし、それを具体的に動かしていく人が必要です。

学校は今大変忙しいとは聞いていますが、それでも学校の先生も一緒に楽しんで、参加できればいいのかなとも思います。

また、このすてきなガーデンのところで子どもたちと家族でみんなが楽しめる、そこから展覧会やいろんなものに活動に入っていけるという本当にいいチャンスをつくっていただいたなと期待して、そして人材についてやはり少し心配しながら、期待しているところです。

【〇〇委員】

歴史文化を生かしたまちづくり事業等でも町並みがブラッシュアップされたり、それぞれの地域のシンボルとなる建物がきれいになったり、皆さんに知っていただくソフト部分なんかもやられて、だいぶ進展したことで、このアンケート結果がそういったものに反映してきているのかなというような感じがしています。

特に富山県は、富山湾に恵みを受けて、港沿いには氷見の定置網関係の網元の家だとか船小屋だとかに力を入れていくようですし、伏木では港町らしい雰囲気、あと内川もやはり同じように、内川沿いの方々が大変地元を誇りを持って、映画でも取り上げられたこともあって、力を入れている。それと、岩瀬の町並みは先行して町並み整備をやられたり、黒部の生地もやはり歴史の町として駐車場を整備したり、これからまだまだブラッシュアップすることで大勢の方に来ていただける空間になるのだらうと思います。朝日のほうでは境がまだ着手していませんけども船小屋が連続してあって特色ある町です。

あと、平野部においても、これは伝統的建造物にもう既に指定されて、高岡山町筋だとか金屋というのが整備されて、今後、吉久だとか他のところもどんどん整備されている。

現在行われている勝興寺をはじめ、善徳寺だとか瑞泉寺だとか大型の浄土真宗寺院も、これも修復が始まって、やっぱりある意味ブラッシュアップされた状態ですので、県外から来られた方も、これだけ1つの県で巨大な本山クラスの大寺院があるというのに大変驚かれるということも、大変富山県らしさが出ているのかなと。

あとは、立山信仰関係を世界遺産にということで、砂防も含めてですけども、立山というのは大変すばらしい三霊山の中の1つになっていますので、それに世界的にも唯一残る室堂小屋だとか、そういったものも整備され復元されたり、あとは麓のかつての全国から集まった宿坊を整備することで全国の方に来ていただいて、体験をしながら山に登っていただくというような可能性を秘めているというのを感じております。

それと、必ずこういう集落には、祭りがついて回りますが、結局自分のところの祭りだけで終わっている。県内のお互いに自分のところにすごい祭りがあると自負していますから、よそのはもう見に行かないという傾向があるようで、だから、それが一体となって情報発信できれば、ものすごく強いものになる。

それと、祭りには食文化とか、おもてなしの食というのが必ずついて回りますので、それが、祭りのときだけじゃなくて、通年でできるような体制というのをやれば大勢の方を呼べる。だんだんと曳山の会館も各地で整備されてきているようでして、そういったところも情報発信ができれば。

それと富山の独特のすばらしさというのは、やっぱり立山を代表するように風景ですかね、原風景がすばらしい立山があり、あと雨晴海岸からの眺望あり、あとは散居村も、砺波に限らず小矢部だとかあとは富山市もそうですし、朝日とか、入善だとかも散村景観がある。こういったものがやっぱり外国の方が来られると、そういう田んぼの風景とかに大変感動されて、すばらしいとおっしゃるので、そういう原風景を維持していくということも大変重要ですね。

それとあと、個人的には愛本跳ね橋に関しては本当に世界一の橋だと思っていて、富山を代表する歴史に残った、世界の人を呼ぶ力を持っているんじゃないかと感じています。

そういったかつてあったものの再現だとか復元だとかそういったものも、本当に抜き出た英知の結晶的なものというのは、永久不変的に誰もが感動するものだと思いますので、ぜひ。

【〇〇委員】

大学生たちを見ていても、地元の富山出身の学生などは、本当に富山愛というものに満ちていて、本当に富山を元気にしたいとか、豊かな伝統文化も生かして、その文化を生かしたそのまちづくりができないとか、そういうことを卒業論文の中でも研究している学生がたくさんいます。

実際、伝統文化、伝統芸能を専門にされている先生とか、里山について考えられている先生とか、文化政策についての専門の先生もいらっしゃいますので、県や市ともっともっとさらにその連携を深めてやっていけば、これから頑張って元気のある富山をつくっていくとか、あるいは地方を自分たちの世代でどうにかしようというふうなものすごく積極的に創造力にあふれる学生の力を生かしていけたらいいなと思うのがまず1つです。

それと、芸術に関心がある若い人というのはすごく少ないなという印象があるんですね。大学に入ってからでは間に合わなくて、子どものときにいかに芸術に触れるかということが、その後の関心というのに本当に大きく左右していると思います。小学校や中学校のときに、自分たちでつくるという授業があるんですけども、鑑賞というのはすごく時間が少ないんです。欧米などを見ていると、美術館に子どもたちが、授業の一環なのか、絵の前に座っているんなことを話し合ったり、学芸員の方に説明していただいているようなのをすごくよく見かけるんですけども、ああいうふうに何度も足を運ぶような機会というのが子どものときにあると、時間はかかるかもしれないですけども、将来に向かって文

化的な感受性とかを養っていけば、その人たちがまた大人になっていってというふうにならずとずっと先まで続く。

私からは大学ともっとさまざまな形で連携できるのではないかとということと、子どものときに鑑賞する機会をできるだけ増やしてほしいというこの2点です。

【〇〇委員】 文化に関する県民アンケート調査結果につきまして、気になった点が2点ございました。

まず、鑑賞と創作というものを分けて考えておられます。文芸ジャンルというものを鑑賞というふうな聞き方をしますと、大変込み入った意味合いになりますので、鑑賞といいますと、どうしてもイメージは音楽とか美術とか芸能ですね、そういうジャンルが中心というふうになりますので、ちょっと聞き方はもしかしたら関係するのかなと思います。

目標が鑑賞と創造に分けられてということになりますと、でき得れば、今後ジャンルごとに実態はどうか、ちょっと細かい聞き方も必要なのかなと思いました。

もう1つは、大伴家持関連のところがございました。結構知られているなど皆さん思われたかもしれませんが、私が驚きなのは、やはり20%の方がほとんど知らない。これは5分の1の方が全然知らないと見てもいいわけです。ということは、これだけの日本全体に知られるくらいの財産でありつつ、地元でこれだけ関与している大伴家持のことを全く知らない人が5分の1ということは、やはりこれはどんどん耕していかなきゃいけない。実際今年から始まったのが、大伴家持生誕1300年ということで、まさしくこの実態に応じた施策で本当にタイムリーだと思っています。

こういう文芸、短詩系にはまず本当に教育現場に身近に入れるというよさを持ちつつ、そして個々に応じられる公平性、公共性という、そういう有効性を持ったものとして、今後また一層展開が期待されるころかなと思っています。

教育課程がございましたので、あまりにもはみ出さないというやり方がやはり必要ではないかと思うんですね。その折り合いを上手につけられるかどうかで幾らでも展開できるのではないかと思ったときに、先ほどからおっしゃるような連携、そしてより地域とおっしゃったときに、短歌を詠むときには、子どもたちは身近な自分たちの地域の特徴も捉えていきますので、ふるさと教育にもつながります。

そして、より多くの子どもたちがまさしく公平に平等にこの機会に触れられるということを目指したいと思います。

【〇〇委員】

子どもたちによりよい文化を伝えたいということが、大人の願いかなと思います。

大人が伝えるという視点もあるんですけども、私自身は子どもから学ぶことがすごく多いです。新しい文化を子どもたちから知り、また教わることもあります。特に学校とか公民館での学んだこと、全ての学びの中で気づいた文化を家庭に持ち帰って、私たち大人に家庭で教えてくれます。

また、彼らはSNS、ネットとかメディアにわりと長けておりまして、最近ユーチューバーというのがはやっているようで、そういったことを、時代の新しい情報をキャッチして、私たちに伝えてくれます。間違った情報も確かにあるんですけども、本当に新鮮なことを伝えてくれます。

それがもし団体でも情報発信、時代を捉えた新たな情報発信のツールとしても、活用していける方法があるのかななんて、ちょっと子どもたちの様子を見ていて思いました。

【〇〇委員】

次の世代の文化の担い手を育てていくということを考えたときに、やっぱり人との関係性の中で育てていくものであるわけですね。

高校生は、入学時には全くゼロの状態でも、専門的な指導をしますと、1年半もたてば、本当に本質的に素晴らしいものを表現できる、理解するというふうなレベルまで到達することができます。大変に豊かな感性とあふれんばかりの情熱を秘めています。そこをやっぱり触発させて、継続的に育てていく専門家の導入ということが本当に先決だと思います。発表機会の充実ということで新美術館もでき、大変ありがたいことだと思っておりますが、やはり人の問題ということは大きいです。

専門家を部活動に呼ぶようなシステムということ、なかなかすぐには無理だと思うんですけども、導入してくださることを切に望みます。

【〇〇委員】

このアンケート結果の回収率が、高くて50%、どうかすると20%台なんですね。関心がないというふうな答えも多かったように、何かやっぱり県民全体として、輝くアーティストなどもおられるわけですけども、県民性として文化性がまだいま一つちょっと盛り上

がっていないんじゃないかなというふうに感じました。

富山県が文化県として名乗るために、やはり文化性の高い生活、要するに日常生活の中にそういう文化性を取り入れたことが営まれるという、そういう県民性、県民性って県民生活を推進していくということが裾野を広げる意味で大変重要なことかなというふうに思います。

文化活動を推進するという企画をする専門家を配置して裾野を広げて、地域ぐるみで文化性を高めていく、そういう富山県をつくっていくことが総じて文化性の高い県民、富山県をつくるんじゃないかなと。

【〇〇委員】

富山の食文化の振興と展開で少し意見を述べたいと思います。

今、富山の素材は全国的に非常に高い評価をいただいておりますけど、富山の料理に技がないという意見もしょっちゅう聞いております。

見て食べているだけでなく、情報というものがあればこそ、おいしさも倍増するわけです。やっぱり現代は情報の量が非常においしさと連動するような感じがいたしております。

富山県人は非常に控え目ですけど、単に素材がいいというだけではなくて、やっぱり富山の料理の思想というものをこれからいろんなパンフレットだとか広報誌の中にも入れていただければ、さらにおいしさが増加するだろうと思います。

【〇〇委員】

今、社会では女性の活躍、会社における女性の活躍というのもよく言われていますが、子どもに何か芸術活動をさせようと思ったら、その送り迎えをすることが必要だとか、そうすると家庭のあり方ということ自体も、核家族が今主流になってきているのをおじいちゃん、おばあちゃんと同居することを推進していったりという、そういう社会の仕組み自体も変える必要がこの文化振興の根っこの部分にももしかしたらあるかなというふうに感じています。

あと、子どもに一流の芸術活動鑑賞とか、せっかくお金をかけてそういう機会をつくるのであれば、それを活かす方法をつくったほうがいい。それを興味を持って見れるかどうか、例えば一流の演奏家がそれまでになるときにどういった苦勞をしてきたかとか、その作品をつくられる背景がどうだったかとか、そういったことをもう少し時間をかけて勉強

をしてから見たほうが興味を持ってその作品なりを鑑賞することができるのかなということをおもいます。

【〇〇委員】

富山県はいわゆる行政、そして民間団体、もう1つはマスコミ、報道機関、こういった3つの主体が非常にうまくかみ合っているという独特な形態である、そういったことを事あるごとに聞いております。

また、流派を超えたコラボレーションをやっている、これがまたもう1つの富山県の大きな特徴だと思うので、このあたりを文言に入れていただいたほうがよいかなと思います。

【〇〇委員】

情報化社会、ネットの時代になって一番影響を受けているのは音楽会が1つあるのではないかと。もうフリーということで、どこへ行ってでも、何でもただで音楽が聞けるし、手に入れることができる。

音楽の学生たちが県内の学校へアウトリーチに出ています。その学校に合った子どもたちが喜んでくれる音楽を一緒にやりたいと。

喜んで受けていただける学校と、えっという感じの学校とを見ていると、すごく濃さが違うような気がするので、なかなか学生さんも生徒さんも忙しいんですけども、できれば来てほしいという声が多く学校のから聞けるように何とかしていただけないかなということで、よろしく願いいたします。